

## 第 5 研究のまとめ

本研究は、本研修センターの統一研究主題である「主体性の育成を図る学校教育」を受けて、「個に応じた指導方法に関する研究」を研究主題に平成 7 年度から 2 か年にわたり研究に取り組んできた。そして、研究を進めるに当たっては、個に応じた指導の在り方を実態調査及び理論・実践研究によって究明することに努めた。

実態調査においては、特殊教育諸学校及び小・中学校の特殊学級等における個に応じた指導に関する実態と諸問題を把握するとともに、個に応じた指導の望ましい在り方を探ることを目的として、質問紙法によって実施した。その結果、個に応じた指導に必要な条件や資料等が明らかになり、研究の主眼である個別指導計画のモデル作成の重要な手がかりとなった。

理論研究では、個に応じた指導の基本となる個別指導計画や、その具体的な方法である個別指導と集団指導の在り方などについて文献を中心に研究を進めた。また、学識経験者を招いてアメリカやカナダ、イギリス等の個別教育計画（I E P）の概要やその実際について講義を受けた。その中で、個別指導計画に基づく指導を進める上で参考となるものと検討の必要なものがあり、わが国の教育事情等を配慮しながら独自のスタイルで取り組むことの重要性を認識した。

実践研究では、校種や障害種を考慮して 4 つの検討グループを組織して、個別指導計画のモデルの作成に当たった。モデルの作成に当たっては、できるだけ様式の簡便化を図り、「どこでも、だれでも、長続きするシステム」にすることを基本方針として取り組んだ。そして、研究協力員の所属校で事例を選択し、このモデルに基づいて個別指導計画を作成し、モデルの検討・改善を行った。その結果、全体として次のようなことが明らかとなった。

- (1) 計画(Plan)－指導(Do)－評価(See)の一連の流れに基づく指導が、より明確に実践できる。
- (2) 指導法の統一や指導の一貫性が図りやすくなる。
- (3) 複数の教師による児童生徒の多面的な見方や評価に基づく指導ができる。
- (4) 家庭との連携をより密にしながら進めることができる。
- (5) 様式を統一することにより次年度の申し送り資料としても活用できる。
- (6) 経験の浅い担当者でも、実態や指導目標を的確に把握して指導に当たることができる。

以上のように、個別指導計画が個に応じた指導を実践するための有効な手段となることが明らかになった。

また、今後の課題としては、次のようなことがあげられる。

- (1) 個別指導計画の作成において、個別指導目標を設定するためのアセスメントの方法を校種や障害種に応じて明らかにすること。
- (2) 個別指導計画に基づく個別指導と集団指導の実際の在り方について、事例を通して究明する必要があること。

このような課題を中心に、個別指導計画に基づく個に応じた指導がさらに充実・深化するよう今後も研究を深めたい。